

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300227		
法人名	特定非営利活動法人 福祉の里なかつ応援隊		
事業所名	グループホーム こもれびの里 北ユニット		
所在地	大分県中津市大字伊藤田1064番地1		
自己評価作成日	平成30年1月18日	評価結果市町村受理日	平成31年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成31年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域密着型サービスの特色として、地域とのつながりを継続できるように、利用者様・ご家族・地域住民・職員が参加できる機会作りの目的に、できるだけ多くの交流を図れる行事を開催することを目標にしている。特に施設がある地域の情報収集に努めて、地域課題の把握の目的で、H30年度より介護相談所を地域に設けている。また施設の職員やご利用者が参加し、定期的に地域の清掃活動を行っている。②ご利用者が、それじれ目的を持って生活が送れるように、「目標カレンダー」を毎月作成し、活動を職員が働きかけている。③施設の畑で育てた野菜を食事の食材に利用している。ご利用者は、新鮮な野菜を頂くことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域密着型の意義を踏まえ、近くのスーパーで毎週、介護相談会を行っている。最近ではなじみの人も増え、声をかけられることが多くなった。
 ・地域住民とのつながりも多く防災訓練の参加や、事業所での行事の参加も多い。
 ・家族の面会が多く、家族とのコミュニケーションがとれている。
 ・事業所内の畑で穫れた新鮮な野菜をふんだんに取り入れ、季節を感じる食事が楽しみの一つとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、理念の唱和を行い、職員全員に周知してもらい、意識をもって実践につなげている。	事務所に理念を掲示し、毎朝職員全員で唱和している。常に理念を頭に置いて日常的に振り返り、共有し実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と地域の住民が交流できる機会づくりを心がけている。施設が秋祭りなどを開催したり、地域の盆踊りにご利用者様や職員が参加をしている。	地域の人に参加できる収穫祭や秋祭りを催している。自治会長から地域行事のお知らせをもらい、椿祭りや盆踊りに職員と共に参加している。定期的なボランティアの訪問も楽しみの一つである。またお寺との関わりも大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場に参加した住民に向けて、認知症の疾患についての講話や説明を行っている。地域の商店の一角に介護相談センターを設置し、認知症についての相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月の開催を定期的に行っている。意見交換を行い、いただいた助言に対して、必ず返答を行っている。話し合った内容は、中津市や包括支援センターに報告をしている。	参加者の中から、駐車場が狭いとの意見があり、改善した。併設の施設で習い事をしている人の発表の場として提供してはどうかなど、意見は多数出ている、その都度検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1回/2か月の運営推進会には、中津市・中津市地域包括支援センター三光園の職員の方に、必ず参加をお願いし、情報提供・意見交換を行い、必要によっては助言を頂いている。	毎回運営推進会議の参加があり、意見や助言を受けている。看取りについての相談をしたり、市が主催する研修会にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H30年度は、前回の外部評価の結果もふまえて、施設の取り組みを計画を立てて、実践をしている。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、定期的に勉強会を実施し、運営推進会議でも発表している。不適切な言葉遣いがあればお互いに注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修会を行っており、職員に周知と意識付けを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	テーマを掲げて、研修会を行っている。不参加の職員に対しては、資料の提供と理解を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、必要時はその都度説明と理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見交換や要望をお聞きできるような機会をつくるように、心がけている。	職員の名札を付けてほしいという意見や、秋祭りが楽しく有意義だったので続けて欲しいとの要望があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ全員がなるべく参加できる会議を毎月開催をして、意見交換の機会をつくっている。また、職員一人一人に対して、面談を定期的に管理者が行って、話をするようにしている。	管理者が定期的に個人面談を行い、意見や意向を聞いている。自己目標シートを作り、面談で活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	⑪に記入のように、定期的、もしくは必要時に管理者が職員と面談を行っている。当施設では、自己目標シートを作り、職員と管理者が内容を確認し、管理できる方法をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、処遇改善加算について、スタッフに説明を行い、それぞれ職員のスキルアップと研修参加を促している。職員に平等に研修の機会をつくるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市内のグループホームの連絡会議に定期的に参加をして、情報の交換を行っている。また、グループホームの合同研修会に、なるべく多くの職員の参加を薦めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・CM・職員がなるべく多く、コミュニケーションを図り、ご本人の不安を軽減できるように働きかけている。できるだけ、ご本人の思いを聞き出せるように、心がけている。サービス担当者会議を開催している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や施設CMが、居宅のCMと連絡をとり、初期の段階から情報収集ができるように努めている。CMや計画作成者が直接、家族に聞いて、ケアプランに反映できるように、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームであるが、相談の段階で、ご家族の要望を確認をして、施設サービスと合致しているかを見極めている。その方にあつた支援についての、情報提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がそれぞれ持っている能力に応じて、生活支援の中で、できるところをご本人に手伝って頂けるように、職員が配慮をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やCM、スタッフが、できるだけご家族と会話をする機会をつくり、ご家族にできることを協力を求め、共同で支援を行っている意識を持つように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	管理者や職員は、ご家族・友人・近隣の知人など、面会の機会をつくることのできるよう、努力している。	家族や知人の面会が多く、毎日来られる人もいる。今まで培ってきた馴染みの人や場所とのつながりを継続して、美容院やお店にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を大切にしている。視力障害や聴力障害がある方が多いため、職員が間に入り会話や関係づくりができるように、心がけている。ケアプランでの支援者と考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に至っても、病院のSWやご利用者様のご家族に情報を確認したり、相談や支援の継続について、声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接思いを聞き取っている。認知症のため、意思を表示できない方は、ご家族に確認をするか、ご本人の様子を観察しながら、思いを察することができるようにしている。	生活歴や家族からの聞き取りにより、思いや意向の把握をしている。日々の生活の中での会話や職員の気付きなどで本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入居時に、担当をしていた居宅支援事業所のCMIに情報提供を求めて、内容を把握するようにしている。また、入居後もご本人やご家族に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者・CM・職員で朝礼やカンファレンスを利用して、状態の確認をし情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度サービス担当者会議やカンファレンスを開催して、ケアプランの立案や見直しを行っている。	3か月に1回モニタリングを行い、担当職員や家族、看護職など関係者と話し合い、現状に即した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護支援経過に日々の記録を残すようにして、介護計画の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設サービスのみに偏らないように、地域やご家族のご協力をお願いしながら、ケアプランに活かしていきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの特色を活かして、地域住民との交流や地域資源を利用できるように、少しずつではあるが、ご利用者様の支援に結びつけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、慢性疾患や認知症が増悪しないように、体調管理に努めている。	元々のかかりつけ医を受診している人がほとんどである。家族や職員による受診もあるが、訪問医の受診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職や看護職が同じ職場内で、情報共有や相談ができるような体制をとっている。2ユニットの管理者が看護職である為、常日頃より医療的な問題は、早急に解決できるように心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院の医療連携室と連絡をとりながら、退院に向けて支援を行っている。病院への情報提供やできるだけ病院に足を運びながら、顔が見える関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族には重度化・終末期についての説明を行うようにしている。そのような状況の時には、ご家族と話をし、ご要望にお応えできるように施設も取り組んでいる。かかりつけ医のご理解が得られて、連携がとれるようにしている。	終末期については早い段階に家族と話し合い、説明を行っている。家族の意向を踏まえ、医療との連携を計りながら、状況に応じて支援を行っている。看取りは経験したが、職員のメンタルなケアも含め今後も研修に取り組む予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あらかじめ、急変のお恐れがある利用者様については、管理者が職員に指示を出して、対応できるようにしている。管理者と連絡がとれるような体制をつくっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、防災訓練(防火訓練)を実施している。地域の方の参加も呼び掛けて、訓練を行っている。今後は、地震や水害についても、早急に対応ができるような体制をつくっていききたい。	年2回、地域の人も含め避難訓練を行っている。市のシェイクアウト訓練や研修にも参加した。自治委員から公民館を避難場所に使用するよう提案があった。	防災訓練は積極的に行われ、地域の人の協力体制も出来ているが、今後自然災害に対しても、実践的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念に掲げ、職員一同心がけている。気になることがあれば、職員間で注意をし合ったり、管理者がその場ですぐに指導をするようにしている。	理念にも一人ひとりの人格の尊重、尊厳をかかげている。職員は理念に基づき、プライバシーの確保に努めている。部屋にも名前を掲げていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の表出ができるように、管理者・職員がご利用者様に、働きかけを行っている。できない方は、表出しやすいように、言い方をかえたり、職員がくみ取ることができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、利用者様の生活のペースでお手伝いをするように、心がけている。毎日の生活に変化がもてるように、ご利用者様と相談をしながら、お手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族がお持ちになった衣服を中心に、その方にあったコーディネートで職員が選んでお手伝いをしている。髭剃りや整髪は、身だしなみを行う上できれいにできるように、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設は、併設の施設で調理したものを、昼・夜と提供をしている。基本的に、職員が準備や後片付けを行っているが、ご利用者様の能力があり、お手伝いを希望されれば、ご利用者様の役割づくりで、協力を求めたいと思う。	自分たちの畑で収穫された季節の野菜をふんだんに使い、季節を感じながら楽しく食事が出来ている。時には食べたいものや好きだったものを提供して、食事が楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは、施設の厨房で管理しており、栄養のバランスがしっかりと摂れている。それぞれの利用者様が食事や水分が十分に摂れているかは、現場の職員がチェック表に記録を残して管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、口腔ケアを各ご利用者様がやっている。(職員が、管理をして、全員が行っている。ご利用者様の能力に応じて、職員が手伝っている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあった方法で、排泄の手伝いをしている。日中は、できるだけトイレでの排泄ができるように、職員と工夫をしている。それぞれの排泄パターンをアセスメントしている。	排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導を行っている。夜間は自室のトイレや、ポータブルトイレを利用しながら自立を促している。夜間のみオムツ使用の人もいるが、安眠を損ねないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜が多いため、できるだけ完食ができるように、職員が声をかけて支援をしている。水分摂取も職員がチェック表を作り、飲水量の管理をしている。運動が十分できない利用者様は、主治医に下剤や緩下剤の処方依頼している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員はむづかしいが、中には入浴の時間を、その方の状況に合わせて決めさせてもらっている。その方のADL等もあるが、入浴方法もその方にあった方法を選んでお手伝いをしている。	一番風呂を希望する人や入りたくない人にもタイミングを合わせ、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のバランスが、とれない利用者様には、日中の過ごし方や眠剤の利用など主治医と相談をすることも。その方の夜間の過ごし方も、状況や要望を確認しながら支援をするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者やスタッフの看護師が中心に、服薬の管理と体調の観察を行っている。定期的な受診は、管理者が主に対応しており(家族の協力もある)、主治医や薬局との連携に努めている。投薬は、事故のないようにスタッフがやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人様の要望を確認をして、楽しみや気分転換を図る機会を増やしている。地域との交流の機会や併設の施設との合同の行事の参加も増えており、生活に変化も多くみられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様のご要望をお聞きして、自宅への外出や外泊を行っている。(ご家族の協力が得られる場合に、職員も協力)施設行事で、出かけることが多いが、職員の介助で、個人的に散歩やドライブに出かけることもしている。	地域の行事やひな祭り、季節の花見に出かけている。近所のお寺に歩いて散歩に出かけたり、自宅周辺をドライブする。家族と共に自宅で外泊するなど、思い思いに外出が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、管理者がそれぞれご利用者様のお小遣いを管理して、必要な物の購入や支払いをしている。定期的に、管理者や職員が支援をしながら、移動販売で買い物をするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理者や職員がお手伝いをしている。難聴がある利用者様が多いため、電話での会話がしやすいように、管理者や職員がお手伝いをしたり、手紙と一緒に読みながらご本人にお伝えできるように、努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるができるように、目につく場所にお花を飾ったり、ご利用者様の作品を展示したりと工夫を行っている。室温や湿度など細かく職員が管理をしている。	畳コーナーで昼寝をしたり、ソファで日向ぼっこをしたり、椅子に座って物書きをするなど、思い思いに居心地よく過ごしている。リビングから中庭や畑が見え、季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫はしているが、むづかしいこともある。場合によっては、居室で思い通りに過ごして頂くこともある。ご利用者様同士で、くつろぐ時間がとれるように、職員が配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や、その都度、ご本人様のお好きなものを持ってきて、飾って頂くようお願いをしている。できるだけ、自宅の部屋と変わらないような物の設置を工夫している。	テレビや椅子、使い慣れたタンスを持ち込み、家族の写真を飾り、一人ひとり個性のある居心地の良い居室となっている。家族の面会時は自室でお茶を飲んだりおしゃべりしながら楽しく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はもちろん、共用スペースは、安全第一に机や椅子・ベットなどの配置を考えている。転倒事故を起こさないように、ご利用者様の導線を考えながら、動きやすいようにしている。自分の居室やトイレが分かりやすいように、目印をしている。		